



NEWS LETTER かながわ

2011 年度第 1 号(通巻第 9 号)

2011 年 7 月 23 日 神奈川支部 発行

連絡先 e-mail: jacdp-kanagawa@hotmail.co.jp

巻頭言

神奈川支部 副支部長 秦野悦子

横浜大会をみんなの力で創りあげよう

2011 年の半分以上が過ぎてゆきました。2011 年 3 月 11 日 2 時 46 分、あのときから、いったいどうなるのだろうかという漠然とした不安をかかえながらの一日一日が過ぎてゆきます。さまざまな事態が収束しないままに日常生活が過ぎていく時、私たちは、カレンダーの進み方に心理的時間が追いついていかないという現実と直面して、時々、戸惑いを感じたりしています。

さて、昨年の神奈川支部総会で、第 7 回全国大会を神奈川支部が引き受けることが決定しました。実際には昨年の 9 月から準備委員会を定期的に行い、議論を重ねながら、次第にこの大会のコンセプトやイメージを高めてきました。

「発達障害支援の最前線——インクルーシブな社会の実現をめざして」が、本大会のテーマです。「備えあれば憂いなし」のことばどおり、準備にずいぶん時間をかけてまいりました。その結果、心理士会企画のプログラムも、準備委員会企画のプログラムも、会員の皆様のさまざまな興味や関心とつながってくるものがそろってきました。

大会参加の事前申し込みは、すでに 5 月末日で終了していますが、当日参加も大歓迎です。お手元にとどいているプログラムをじっくりとご覧いただき、横浜国大まで足をお運びください。

横浜国大は常盤台の小高い丘の上であり、この 4 月からキャンパス構内にバス運行通路が含まれたため、時間帯によっては、少し便利になりました。9 月の始めの大会開催時期は、まだまだ残暑が厳しい頃ですが、木々に囲まれた緑陰で一息ついて、懇親会が行われる夕方の頃は、暮れなずむ横浜港を見下ろしながら、夜景へと移りかわるさまを満喫できることと思います。

地元開催ですので神奈川支部会員の一人でも多くの参加を期待するとともに、この大会をきっかけにして、横浜の地から、新しい交流や、実践の発展、研究のつながりが生まれ、育っていくことを心から願っています。

神奈川支部研修会報告

テーマ：医療とのつながりを考える —子ども医療センターの実践から—

日時：2011年5月28日（土）13：30～16：30

場所：ウィリング横浜

講師：山崎敦史氏（中央児童相談所）

神奈川支部として全国大会を開催する今年度の研修は、全国に誇る“神奈川らしさ”を再発見し、会員間で共有することを目的に、年間テーマを「神奈川の実践に学ぶ」としました。県内の先進的な取り組みや実践に学び、会員それぞれの仕事との関連を考え、機関連携の視点を持つことで、臨床発達心理士としての専門性を高めていきたいと考えています。

第1回目は、「医療とのつながりを考える—県立こども医療センターの実践から—」として、昨年度3月まで神奈川県立こども医療センター発達支援科臨床心理室にいらした山崎敦史先生（現在は、神奈川県中央児童相談所子ども支援課主査）よりお話をうかがうとともに、医療との連携についてパネルディスカッションを行いました。65名の会員の参加がありました。

山崎先生からは、こども医療センターについて、臨床心理室について、児童思春期精神科について、そして、「子どもの心の診療拠点病院機構推進事業」について、お話をうかがいました。さらに、後半のパネルディスカッションでは、学校現場、青年期・成人期の発達障害支援の立場から3名のパネラーにより問題提起がされ、フロアとともにディスカッションを行いました。

参加者がそれぞれの立場において、臨床発達心理士として、医療とどのように連携していくのか、考える機会を得ることができたのではないかと思います。

神奈川県支部研修会についてのアンケート結果

(参加者のうち、提出された 31 名の結果)

1. 今回の研修会の内容について

1) 自分の知識の広がりにつながるものでしたか (5 択)。

「とてもそう思う」8名 (26%)、「そう思う」21名 (68%)、「どちらでもない」2名 (6%)

2) 臨床現場に役立つものでしたか (5 択)。

「とてもそう思う」7名 (23%)、「そう思う」22名 (71%)、「どちらでもない」2名 (6%)

3) 内容へのご意見をお聞かせください (自由記述)。

- ・神奈川県内の実際のとりくみを具体的にきかせていただけ、勉強になりました。
- ・実際に関わっている子どもたちが通院している、また、今後紹介するかもしれないセンターの詳しいお話を伺うことができよかった。
- ・支援する子どもたちは利用しているのですが、どのような診療が行われているのか見えにくく、わかりやすく教えていただけてありがとうございました。資源としてもあるということがわかりました。
- ・パネルディスカッションがよかったです。
- ・自分の領域以外のお話をきけるのは、視野が広がりありがたいです。連携のあり方について学ぶ機会になりました。

2. 今後の神奈川県支部で希望する研修会・研究会について (自由記述)

- ・発達障害と学校臨床
- ・思春期・青年期・成人期の発達障害について
- ・発達障害者・知的障害者の地域移行や社会適応について
- ・肢体不自由児や重症心身障害児者に対する心理の関わり
- ・乳幼児の臨床発達の支援について (療育や子育て支援、巡回相談など)
- ・小児の精神障害について
- ・虐待について
- ・市町村によって (海老名市→えびなっこファイル、厚木市→マイサポートブック)、支援に必要な児童にサポート体制を行っているその現状について
- ・PMR の子どもたちと発達障害
- ・WISC-IVについて
- ・SST
- ・TEACCH プログラム
- ・年間テーマ「神奈川の実践に学ぶ」から活動している方からの講演会など
- ・発達の時間的な流れをより典型的なケースへの支援のあり方
- ・発達支援の各現場の現状と今後への課題について情報を共有できるような内容 など

